



恩田大川入山(恵那山南部) (積雪期ピ ークハント/縦走 / 中央アルプス)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年03月19日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

快晴

地図 :



WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

5:23 あららぎ高原スキー場入口--6:21 グレンデ上部の登山口--9:07 恩田大川入山(最高点) 9:31--9:40 恩田大川入山(三角点)--9:53 恩田大川入山(最高点)--11:49 グレンデ上部の登山口--11:59 グレンデ下端--12:05 あららぎ高原スキー場入口

コース状況/その他周辺情報 :

- ・途中まで大川入山登山道を利用し、その後は道無しで残雪を利用
- ・あららぎ高原スキー場の上部に登山口あり。地形図と位置が異なるので注意
- ・2012年のスキー場営業は3月20日まで。営業終了なので、来年のオープンまでは登山口までリフト利用で楽できない。
- ・登山ポストなし

- ・ルート上は危険箇所なし
- ・標高1900m以上では展望良好。南アの展望台
- ・積雪はそれほど多くなく、4月に入ると藪が出る可能性大

 写真:



アララギ高原スキー場



スキー場ゲレンデ。今年の営業最終日1日前



ゲレンデ上部の大川入山登山口



最初は雪が少ない



雪の上には昨日の登山者の足跡。恩田大川入山最高点手前のピークまでトレースが続いていた



1520mで地形図の破線に乗る



標高1800mを超えるとシラビソが混じる



標高1700mくらいから雪が連続するようになる



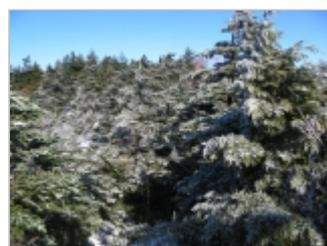
大川入山



稜線から見た乗鞍岳、穂高



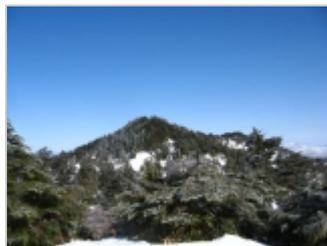
稜線から見た南ア深南部



稜線上は木が密集する場所もある



開けた場所もある



尾根は北に向きを変える



展望のいい尾根が続く



奥に恵那山が見える



もうすぐ山頂



最後の登り



地形図上の最高点(1940m
峰)と大川入山



最高点から見た西半分の展
望



最高点から見た伊那谷



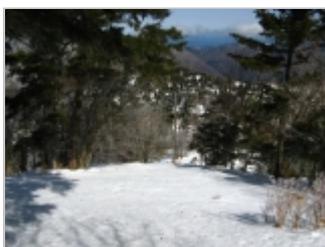
奥に見えるのは白山南部
か?



県境稜線に到達。体感での
最高点



三角点のある肩。山頂から
北に下った場所だが日本山
名事典ではここが山頂。



三角点肩から恵那山へと続
く尾根

感想/記録 : (by gekiyabu)

注意:写真と地図の関係が正しくないものが含まれますがご容赦を(ルートは手動で入れているため)

はじめに

- ・本コースは大川入山登山道を離れた先は登山道はなく、一般登山者向けではありません。笹藪がひどく一般には雪がある時期にしか登られません。
- ・雪のある時期に登ると登山道は雪の下になるため、地形を見て自分でルート判断できる能力が無いと遭難の可能性が高くなります。
- ・私が登った時の残雪量は正確には分かりませんが、標高1900m以上でおおよそ50cm程度と思われます。新たに雪が積もらない場合、あと2週間もすれば部分的に笹藪が現れると思われます。3月中に登るのがいいでしょう。

アララギ高原スキー場から大川入山登山道を利用し往復。おおよそ標高1700m以上で雪が連続し、大川入山登山道が分かれる付近は藪が隠れるには十分な積雪があって笹藪は埋もれ、気温が下がって雪も締って終始快適だった。アイゼン、スノーシュー、ピッケルを持っていったが恩田大川入山最高点～三角点間往復でスノーシューを使った以外は出番なし。積雪が期待できるのはたぶん4月上旬までで(その間に下界で冷たい雨が降れば別だが)、その頃でも部分的に笹藪は出てしまうと思う。3月いっぱい最適。

21012年のスキー場営業は3月20日まで。それ以降は登山口まで歩いて下さい。なお、地形図の破線の位置は現場と異なり、ゲレンデ上部南側に登山口があり、地形図の破線より南側の尾根に登山道が付いている。1520m肩で地形図の破線と合流するが、これより下部の波線は存在した形跡は見られなかった。登山道は良好。前日に入ったパーティーの足跡が明瞭に残っていた。なお、この足跡は恩田大川入山最高点の一つ手前のピークまで続いていた。おかげでそこまで踏み抜き皆無で快適だった。

標高1700mを超えると残雪が連続するようになった。標高1800mくらいに達すると夏道がどこにあるのか全く不明で、踏み抜きしないで楽に歩ける先人のトレースに従った。さらに標高が上がって傾斜が緩むとシラビソの間隔が広くなり展望が開ける。南アは入笠山から深南部までの大展望。中アは木曾駒からアザミ岳まで。北アルプスは雲が多く穂高しか見えなかったが、雲がなければもっと見えそう。

標高1900mに達すると大きな登りは無くなり、細かなアップダウンの尾根に変わる。部分的には低い位置から枝を伸ばしたシラビソが行く手を邪魔することもあるが、大多数の場所では木の間隔が広かったり尾根が広く迂回可能だったり快適に歩ける。目印も多い。大川入山への登山道の分岐点は分からなかった。

地形図の最高点は県境尾根手前の1940m峰だが、現場の感覚では県境尾根の方が数m高いと感じた。日本山名事典では1921.1m三角点のある肩を山頂としているが、見ての通り最高点からは明らかに下っているし、ピークではなく肩なので山頂と呼んでい

いのか・・・。一般的にどのピークを山頂と呼んでいるのかは不明である。

地形図上の1940m峰は展望が開けて休憩にいい場所。ただし木が無く北西の風がもろに吹き付ける場所なので、穏やかな天気の時がいい。県境稜線ピークはシラビソ樹林で展望なし。

帰りがけに単独行の男性とすれ違った。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>